三陸沿岸道路（釜石～宮古）に係る新規事業採択時評価

資料4-2

1. 事業概要

・区間
岩手県釜石市甲子町
～岩手県宮古市松山

・経緯
H23.7.1　：三陸沿岸道が通る概ねの範囲の公表と意見募集
H23.8.5　：三陸沿岸道が通る概ねのルート及び出入り口の位置の公表と意見募集
H23.8.30：三陸沿岸道路ルート決定公表

・地域の要望等
H23.6.24：宮城県知事より当該区間を含む三陸沿岸道路の早期開通を国土交通省に要望
H23.6.29：岩手県知事より当該 区間を含む三陸沿岸道路の早期開 を国土交通省に要望

図1　事業位置図

2. 必要性の評価

（1）課題の整理

○防災・災害時の救助活動等

【緊急物資の円滑な輸送の確保】
・東日本大震災では、津波（地域最大22.9m）により壊滅的な被害を受け、現道は瓦礫等により寸断（図2）
・近傍に災害時に機能する迂回路がなく、現道の寸断により大槌町等複数の地区で孤立

【減災対策への取り組み】
・釜石市、大槌町等において津波襲来時に避難路、避難施設が僅少

国道45号の路面崩壊（山田町）

国道45号の瓦礫による寸断（大槌町吉里吉里）

国道45号の瓦礫による寸断（宮古市）

図2　寸断された国道45号

○住民生活

【救急医療施設への速達性向上】
・沿線の三次救急医療施設は盛岡市、大船渡市のみであり、高次医療施設への速やかな搬送ルート確保が必要不可欠（図3）

【他交通機関への利便性向上】
・沿線地域から広域交通拠点である空港等への時間距離が大きく、産業や観光等で不利

図3　三次救急医療60分カバー圏

○地域経済・地域社会等

【周辺市町村との連携強化（隘路の解消）】
・釜石北IC～山田南IC間、山田IC～宮古南IC間は高速道路が不連続であり、現道区間は線形不良箇所などがあるため地域間の連携に支障をきたす

【産業拠点の分断防止】
・震災からの復旧・復興のため地場産業の復興及び雇用の創出が不可欠
・三陸沿岸地域は水産業が基幹産業であるため、津波による甚大な被害からの復興が急務（図4，5）
・宮古市はコネクター製造で岩手県を牽引する地域であり、製造業の復興支援が必要（図6）

図4　津波被害を受けた釜石魚市場

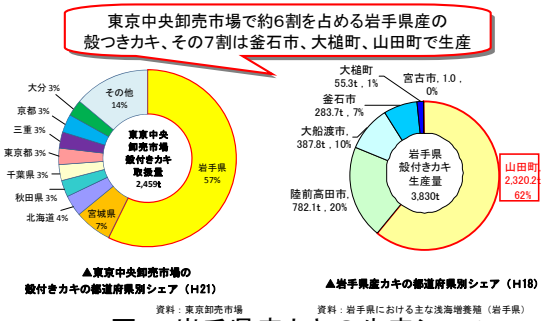

図5　岩手県産カキの生産シェア

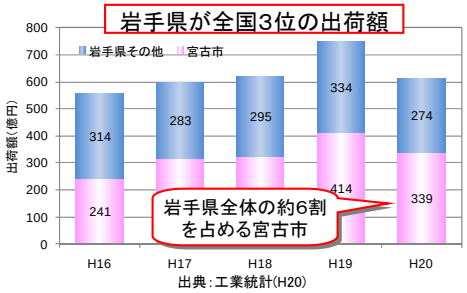

図6　岩手県内のコネクター出荷額

（2）事業の必要性

東日本大震災からの早期復興の支援、孤立防止など津波に強い地域づくり、広域的なリダンダンシーの確保、平常時も含めた救急搬送圏の拡大のための速達性確保といった様々な課題に対応するため、本事業の実施が必要である。

三陸沿岸道路（釜石（かまいし）～宮古（みやこ））に係る新規事業採択時評価

3. 有効性の評価

（1）ネットワーク上のリンクとしての防災面の効果

①主要都市・拠点間の防災機能【評価：◎】

●釜石市～宮古市の評価

現　況 →	（目標）整備後	評価
D →	（B）B	◎

		耐災害性	多重性
	A	あり	あり
	B	あり	－
	C	なし	あり
	D	なし	なし

図7　釜石港にて物資を下ろす国土交通省の船舶「清竜丸」

図8　主要拠点間連携イメージ

②ネットワーク全体の防災機能【評価：◎】

・災害時における、当該リンク周辺の市町村から、県庁所在地（盛岡市）や隣接市町村等までの、通常時と災害時の到達時間の遅れの程度（弱点度）及び改善の程度

区間	弱点度（整備前）	弱点度（整備後）	改善度
山田～宮古南（宮古～山田）	当該リンクが津波により遮断され不通（∞）	通常時に比べ0．7倍の時間を所要	当該リンクの整備により不通が解消（∞）

（2）当該事業による効果

○防災・災害時の救助活動等【評価：◎】

【緊急物資の円滑な輸送の確保】

・救援物資輸送の拠点となる釜石港～宮古市間や花巻空港～宮古市間の連絡時間を短縮（図11）

【減災対策への取り組み】

・津波浸水区間を避けた位置に計画しており、避難路や避難場所として活用（図9）

・山田町豊間根周辺ICから豊間根小学校等の避難所へのアクセス強化（図10）

図9　高架で津波被害を免れた釜石山田道路

○住民生活【評価：◎】

【救急医療施設への速達性の向上】

・三次救急医療施設の60分圏域が拡大するとともに、負傷者受け入れの拠点となる県立釜石病院、県立宮古病院への救急搬送の速達性が向上（図11）

〔大槌町～県立釜石病院：34分→24分（10分）
山田町～県立宮古病院：54分→24分（30分）〕

・避難所や防災拠点施設付近にICを設置し、緊急時の救助・救援活動を強化

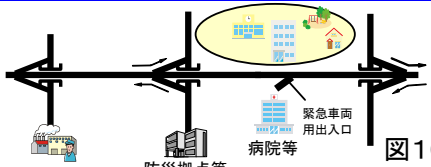

図10

○地域経済・地域社会【評価：◎】

【産業拠点との連絡性向上】

・田鎖工業団地（宮古市）、羽々の下工業団地（山田町）との連絡時間を短縮し、新規の企業立地の促進が期待される

〔釜石港～宮古市：77分→55分（22分）〕

【周辺市町村との連携強化】

・高速道路が連続するとともに、釜石市～宮古市の規制速度は40km/h～60km/hから70km/h～80km/hと改善し、各地域の広域的な連携に貢献

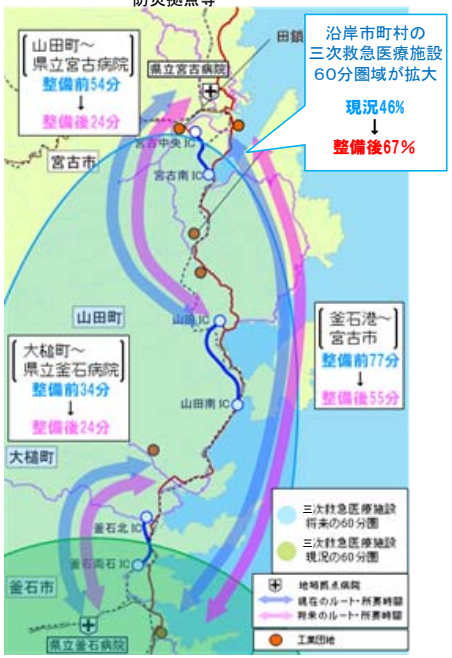

図11　輸送拠点との連絡時間と三次医療施設60分カバー圏の変化

（3）事業の有効性

・当該事業の実施により、ネットワーク上のリンクの評価がDランク→Bランクに改善し、防災機能が強化される。

・孤立箇所の削減など津波への適応性が改善するとともに、速達性の向上（3次救急医療施設60分圏域人口が21％増加）により救急搬送の改善や地域間の連携が促進され、三陸地方全体のリダンダンシーの向上につながるなど、優先度の高い事業と評価する。

4. 事業化する区間の延長、構造規格等

区間	概略延長（km）	構造規格	設計速度（km/h）	事業費（億円）	B／C	
山田～宮古南	14	1種3級	80	570	2.1	2.2（釜石～宮古）

三陸沿岸道路（釜石～宮古）に係る新規事業採択時評価

【平面図】